

ビジョン検討会におけるこれまでの議論のまとめ（案）と  
今後の検討スケジュール（案）

I これまでの議論のまとめ（案）

1 施設整備ビジョンコンセプト 第1回、第2回、第3回

(1) 大学の方向性

- 目 標 「オンリーワンの大学力」を持つ
- 方 針 「愛・知・芸術の森」
- 理 念 ①芸術文化にたずさわる優れた人材の育成  
②国際的な芸術文化の創造・発信拠点  
③地域社会と連携して、芸術文化の発展に貢献

大学として目指す方向性（アカデミックプラン）である。

(2) 施設整備のあり方

- ・〈教育・研究〉 / 〈生活〉 / 〈連携〉 / 〈国際化〉 / 〈環境〉 の5項目を設定
- ・各項目を[整備の観点]と【具体的な視点】により施設整備のあり方を提示

《検討会での意見》

- (1)の3つの理念と(2)の5項目の関連が読取れない。
- [整備の観点]と【具体的な視点】の関係を整理する必要がある。
- 〈連携〉の「訪れた人がキャンパス奥深くまで回遊」という記述が修正されたが、このあたりがゾーニングにも関わってくる。  
⇒現在のコンセプト（修正案）を基本とし、今後の議論を踏まえ修正していく。

(3) 継承すべき項目

- ・緑豊かな環境/施設配置の間と群/視線と見通し

《検討会での意見》

- 個々の建物やその配置、キャンパスの空間構成等、具体的な継承のあり方を検討する必要がある。  
⇒利活用する建物の検討やゾーニング計画の検討を通して実現していく。

2 ゾーニング計画 第3回

- ・美術ゾーン、音楽ゾーン、共用ゾーン、地域交流ゾーン、新規事業のゾーンを仮配置
- ・講義棟を中心軸とした共用ゾーンの左右に美術ゾーン、音楽ゾーンを配置
- ・大学の入口一帯に地域交流ゾーンを配置
- ・将来の大学機能の充実に備え、新規事業ゾーンを配置

議論したゾーニング計画（案）をもとに、利活用する建物の検討をしていく。

3 音楽学部棟の整備 第2回、第3回

(1) 現在の音楽学部棟の問題点

- ・練習室やレッスン室の遮音性能はほとんどない。
- ・練習室の数や一人当たりの面積が少なく、十分な練習ができない。

芸術大学の音楽教育施設に求められる教育環境を満たしていない。

(2) 改修の検討

- ・遮音性能を高めるためのコンクリートの増し打ちは、耐震性が低下する。
- ・防振遮音天井を設置した場合、天井高が230mm程度下がる。
- ・外壁側にふかし遮音壁を設置した場合、室内寸法が115mm程度小さくなる。
- ・隣接室間の壁にふかし遮音壁を設置した場合、室内寸法が230mm程度小さくなる。

改修して音楽学部の教育施設として使用することは困難である。  
建物あるいは敷地は他の用途での利活用を検討していく。

(3) 建設場所

- ・楽器の運搬上、現奏楽堂に近い場所であること。
- ・将来、新奏楽堂を学外の聴衆を迎えやすい玄関近くに配置し、地域交流や芸術創造の象徴となる施設としたい。
- ・現在の音楽学部棟での教育研究に工事の騒音が影響しないこと。

(4) 新音楽学部校舎の基本設計

- ・「緊急整備対応指針」に基づき、県が平成21年度に実施したもの。
- ・環境及び景観に対する配慮事項等についてプロポーザルを実施し委託業者を決定。

ビジョン検討会としての改善点・留意点等のアドバイスを、平成22年度の実施設計で検討していく。

II 今後の検討スケジュール（案）

時期	開催	議題	備考
8/6	第4回	個々の建物の現況説明	[各ゾーンの検討事項] 1 必要な施設、機能の検討 (例)共用ゾーンの場合 ・講義用施設 ・福利厚生施設 ・管理施設 ・図書館
9月	第5回	} 各ゾーンの検討	
10月	第6回		
11月	第7回		
12月	第8回		
1月	第9回	ゾーニングと建物配置のまとめ 整備の優先順位の検討	・管理施設 ・図書館
2月	第10回	施設整備ビジョン（案）の検討	2 改修・増築・改築の検討
3月	第11回	施設整備ビジョンの決定	3 建物配置の検討 4 他ゾーンとの調整